

## 序 はじめに

技能実習生（研修生含め）約23万人（2017年）

国籍：中国→ベトナム。

業種・地域：労働力不足に直面、中小零細企業・農林漁業等。

2018年、在留資格「特定技能」の創設。介護・農業・建設等、14分野で外国人労働者の受入拡大。

5年間で約34万人の受け入れ見込み。

日本での転職の自由なし。

調査：1999年、縫製業企業・33社、270名。

世論：「技能実習（技術移転）と労働を明確に区別すべき」、「技能実習のあり方を厳しく規制すべき」。

法務省入国管理局 & 人権を重視する支援ボランティアの双方から。

BUT 当事者（技能実習生）：「実習と労働の明確な区別」「規制強化」よりも、  
「よりよい実習・労働条件の実現」を希望。

## I. 基本属性と来日前の労働・生活

女性（94.3%）、中学卒（80.4%）、来日前の職種：ミシン縫製工（91.5%）、

来日前の居住地：上海市（83.8%）、遼寧省（13.4%）

年齢：平均30歳、25～34歳（76.4%）、既婚・子供がいる（83.5%）。

来日前の労働時間：平均9時間17分、来日前の個人月収：平均1039元（約1万6000円）。

来日に際し、中国の派遣会社に3万5000～6万5000元の保証金（3～5年分の年収）。

←日本での失踪の防止 & 派遣企業の直接的利益。

日本への実習を目指す動機：「貯金を増やす」（75.9%）、「縫製技術・技能の向上」（56%）。

## II. 来日後の実習・技能実習・生活

来日直後、1カ月間の集合研修の座学。基礎的な日本語・アパレル関係の知識を学ぶ。

実地研修の職場＝大阪府内（58%）。近畿、中国、中部、四国等も。

実習の内容：ミシン縫製（83.2%）、アイロン・裁断。

来日前に従事していた同じ作業に比べ、作業の質が多様・複雑、変化に富み、スピードも早く、仕上がりの質に対する要求も厳しい。

日本人労働者も含め、作業内容に顕著な差はなし。

実習時間＝1日平均9時間6分。

実習費・賃金＝残業代を含め、平均8万660円。来日前の月収の約5倍。

BUT 「少し不満／とても不満」（50.6%）、「とても満足／まあまあ満足」（41.8%）。

悩み・問題＝「残業が少ない」（44%）、「残業代が安い」（23.6%）、「研修費・賃金が安い」（25.6%）

「物価が高い」（63.4%）、「家族と離れて寂しい」（67.3%）。

## III. 来日後の社会関係・日本人との交流

日本人労働者の社会関係：希薄。

悩みを相談する日本人が「いない」（69.6%）、気楽に話をする日本人が「いない」（81.5%）

「日本人ともっと交流したい」（60.2%）。

←言葉・日本語、文化習慣の壁。

BUT 言葉や文化習慣の壁だけではない。

日本語能力が高い人：悩みを相談できる日本人が「いる」（31.0%）、

気楽に話せる日本人が「いる」（27.6%）

「深く知り合うチャンスがない」「相談しても解決しない」「日本人は水臭くて冷たい」

「一日中黙って働いていて、付き合う時間はない」。

& 日本人との交流・日本語習得を主な目的として来日したわけではない。

& 実際に直面する問題：流暢な日本語で交渉しても容易に解決しない。

ex) 実習費・賃金の引き上げ、残業の確保。

失踪（超過滞在）を警戒する会社側：職場以外の人々との交流を厳しく制約。

ex) 宿舎には門限、夜間外出は禁止。休日の外出先や交際相手を報告義務、抜き打ち外出検査。  
社会関係や行動の自由の束縛。強い不満・不信感。

→同じ職場の中国人技能実習生・研修生の内部での狭隘な社会関係。

& 狭い関係の内部も親密ではない。

悩みを相談する中国人が「いる」（46.3%）、気楽に話す中国人が「いる」（56.5%）。

#### IV. 社会意識と将来指向

日本人の労働観：「上司の指示に従順で、規則をよく守る」、「まじめで勤勉」、「仕事に対する責任感が強い」

日本人の生活：「礼儀正しい」、「治安がいい」、「経済的に豊か」、「規則をよく守る」「生活が便利」  
BUT 「人間関係が冷たく疎遠」、「本音と建前がある」。

実習で得た成果：「縫製の技術・技能が高まった」、「貯金が増えた」。

多様な側面で広義の労働観・労働態度が変化。

今後、成果をどのように生かしていくか：多様な展望。

今回の研修・実習が将来に「生かせる」（51.7%）、「あまり／まったく生かせない」（44.9%）。

「生かせる」：「またチャンスがあれば日本に研修に来たい」、

「生かせない」：「もう来たくない」。

#### V. 来日年次・滞日年数による諸変化

労働条件：1年目の研修費：月平均6万8000円、「少し／とても不満」（58.6%）

研修生＝残業禁止、「残業がなく、収入が低い」という不満。

技能実習生：残業が認められ、2年目で平均8万6319円、3年目で9万845円。

「まあまあ満足／とても満足」。

生活面：1年目：「物価が高い」「日本語・言葉が通じない」。

2年目：「中国の家族のことが心配」「集団生活で疲れる」。

3年目：「家族と離れて寂しい」「自分の健康に不安がある」等が付加。

日本の生活に慣れれば問題がなくなるのではなく、別の質の問題が顕在化・付加。

社会関係・日本語能力：滞日年数が延びてもあまり変化せず、一貫して希薄・不十分。

BUT 日本人との社会関係が希薄である理由：滞日年数に応じて着実に変化。

来日直後は「言葉の壁」→「労使関係」その他。

#### VI. まとめ

①研修・技能実習を通して、当初の目的であった「貯金の確保」と「縫製技術の向上」をある程度達成。

& 広義の労働観・労働態度の変化、日本人の労資関係を含む社会関係への批判的眼差しの成熟等。

来日直後は言葉や文化の壁と捉えられていた諸問題→労資関係の問題だと了解。

＝民族や文化を超えた階級的視点の萌芽。

②こうした成果：様々な犠牲や矛盾と表裏一体。

残業を含む長時間の研修・労働に没頭しようとしている。

家族との離別に伴う精神的苦痛、及び、来日前に支払った多額の保証金：こうした態度に一層拍車。

日本での社会関係：極めて希薄。

会社側は失踪を警戒して厳しい生活管理→全般的な外れな自由の束縛、社会関係を一層閉鎖的に。

& 労資関係・日本での社会関係の質に対する批判：孤立・社会関係の希薄さゆえに、共有・展開されることは少なく、むしろ個人の内なる不満、彼女達内部での相互不信へと転化。

③研修・技能実習の成果やそれに伴う諸個人の変化が、将来に生かせるか？

評価は二分。 分岐：実習・労働条件の客観的な差というより、労資関係を含む社会関係の質。

日本人や中国人仲間と比較的良好な関係を形成し得た人：成果を実感、将来に生かせる。

狭義の語学力以上に、労働・生活上の諸問題の相談や解決が実際にいかになされるかが重要。

④滞日年数によって、1)労働条件、2)生活、3)社会関係がそれぞれ固有の変化。

⑤研修生・技能実習生によるストライキ、失踪、訴訟、多様な形での異議申し立ての噴出。

多発する「山猫スト」、集団交渉も。労働者階級としての成長。